

## 令和4年度事業報告書

令和4年4月1日より令和5年3月31日まで

公益財団法人 横山大観記念館

はじめに

令和4年度の事業活動は、通常開館を行いました。新型コロナウイルスの影響を受け、入館者は前例のない低水準となり、昨年引き続き厳しい状況でありました。しかしながら、令和4年度文化庁の「博物館等の国際交流事業」の受託により隈研吾氏による横山大観記念館の魅力発信ビデオ制作とWEBでの発信や、フランスでの展示会など近代日本文化の国際発信を実施、また史跡及び名勝横山大観旧宅及び庭園整備事業を行い、文化財の価値を高め後世に遺すよう尽力するなど、地域へ貢献する事業を多角的に実施いたしました。

### 1. 公益事業

#### (1) 横山大観記念館での展示

横山大観氏の偉業を記念し、同氏の遺作及び遺品並びにその他の美術作品及び関連資料を鑑賞する機会を提供する以下の事業を行いました。

当年度開館日数	189日(2022年4月1日から2023年3月31日までの期間)			
事業実績 (概要)	展覧会名称	会期	開館日数	観覧者数
	日本美術院と大観	4/4-6-26	52日	1429人
	大観と洋	7/7-9/25	47日	1119人
	夜を描く	10/6-12/25	48日	1623人
	冬の景色	1/12-3/19	42日	1990人
	年度合計			189日

#### (2) 令和4年度博物館等の国際交流の促進事業委託業務「東西文化財を活用した博物館等の国際交流事業」の実施

##### ①<学芸員等の共同調査・研究等による文化財等の新たな価値の創出>

横山大観記念館学芸員、東京藝術大学大学院教授、三菱一号館美術館主任学芸員等とジヴェルニー印象派美術館、モネ財団が連携し、横山大観の終の住処である大観邸と印象派の巨匠クロード・モネの終の住処であるモネの庭や家の共通点や相違点等の調査・研究を実施し、フランス及び日本において国際交流を実施しました。加えてフランス郊外のアンボワーズのレオナルド・ダ・ヴィンチの終の住処であるクロ・リュセ城(ユネスコの世界遺産)との「芸術と建築」をテーマにしてフランス及び日本での国際交流を実施しました。

##### ②<フランスでの展示会の開催>

令和4年10月、分野の違う学芸員等が連携して実施した大観とダ・ヴィンチの比較研究の成果を、クロ・リュセ城での展示会で発表しました。また、同時にレプリカを活用した日本文化の魅力の発信も行いました。

##### ③<ワークショップ「大観の色・モネの色」開催>

令和4年11月、印象派美術館との国際交流での成果を発信するワークショップを上野で開催しました。ワークショップの様子はYouTubeでも配信しています。

③<教育ビデオの制作>

学芸員等の調査・研究等の成果を活かした、多言語動画「朦朧体と印象派（出演・横山浩一氏、ジヴェルニー印象派美術館館長シアマ氏）」「画家と建築（出演・建築家隈研吾氏、クロ・リュセ城主フランソワ・サンブリ氏）」の教育動画を制作してYouTubeで配信しました。

⑤<シンポジウムにおける活動成果等の報告>

令和5年2月、本事業をモデルとした国際交流等を他の博物館への展開を図ることができることを目的とした文化庁が開催するシンポジウムに参加して、報告を行いました。

(3) 史跡及び名勝横山大観旧宅及び庭園整備

横山大観旧宅及び庭園は、再建から60年以上が経過して老朽化しており、樹木や外構等に損傷が見られます。また、母屋においては、床の傾斜や壁のゆがみ等が生じています。公開施設であることから早急な対応が必要なため、平成29年度に保存活用計画を策定し、平成30年度から委員会を設置し整備事業を実施しています。令和4年度は、主屋1階に展示室を増設、並びに非公開部分の耐震補強工事を実施しました。

(令和5年3月31日現在 敬称略・順不同)

役職	氏名	備考	分野等
委員長	鈴木 誠	東京農業大学教授	庭園、名勝
副委員長	浦井 正明	台東区文化財保護審議会委員	歴史
委員	内田 青蔵	神奈川大学教授	近代建築史、近代住宅史
委員	長岡 信裕	上野観光連盟会長	
委員	横山 優子	横山大観記念館事務局長兼学芸員	
委員	梶 靖彦	台東区教育委員会事務局次長	
委員	久木田 太郎	台東区教育委員会生涯学習課長	

\* 助言指導者(オブザーバー)

- 浅野 啓介 文化庁文化財第二課文化財調査官(史跡部門)
- 青木 達司 文化庁文化財第二課文化財調査官(名勝部門)
- 鈴木 徳子 東京都教育庁地域教育支援部管理課統括課長代理(埋蔵文化財担当)

2. 収益事業

コロナ禍における入場者の激減により、売店売上げも引き続き厳しい状態となりました。しかしながら、来館者数に対する売上げ比率は上昇し、わずかですが黒字となり利益を公益事業に配賦することができました。

以上